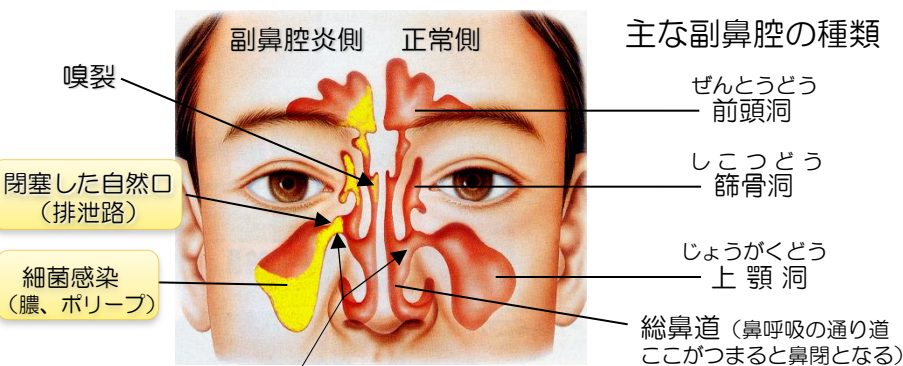


蓄膿症・好酸球性副鼻腔炎

細田耳鼻科 EAR CLINIC

URL : <http://www.hosoda-cl.com/>
E-Mail : y-hosoda@mtd.biglobe.ne.jp

病態：蓄膿症とは慢性副鼻腔炎と同じ意味です。頭部には副鼻腔という空気で満たされたいくつかの空洞がありますが、これらに慢性的に細菌が感染した状態を慢性副鼻腔炎と言います。鼻汁、鼻閉、頭重感、痰、嗅覚障害、いびき、注意力散漫、咳、喘息、咽頭炎、子供では繰り返す中耳炎や滲出性中耳炎などの原因となります。アレルギー性鼻炎とは異なる病気ですが、副鼻腔炎と合併していることはよくあります。



原因：正常では**自然口**という自浄作用を持った排泄路があり、貯まった膿を排泄することができます。この排泄路の閉塞が最大の原因です。



正常では、副鼻腔に空気が存在し、CT検査では黒く描出される。すべての副鼻腔は自然口を通して総鼻道に開口し、自浄作用を保っている。

細菌感染である従来型の副鼻腔炎では、主に両側の副鼻腔に病変が見られることが多い。両側の上顎洞自然口は閉塞して、自浄作用を失っている。

近年増加傾向にある好酸球性副鼻腔炎は、好酸球による異常な炎症が起こる。主に両側の篩骨洞に病変が集中し、嗅裂も閉鎖しやすく嗅覚も障害されやすい。抗生剤の有効性が乏しい。

副鼻腔炎に対する治療方針

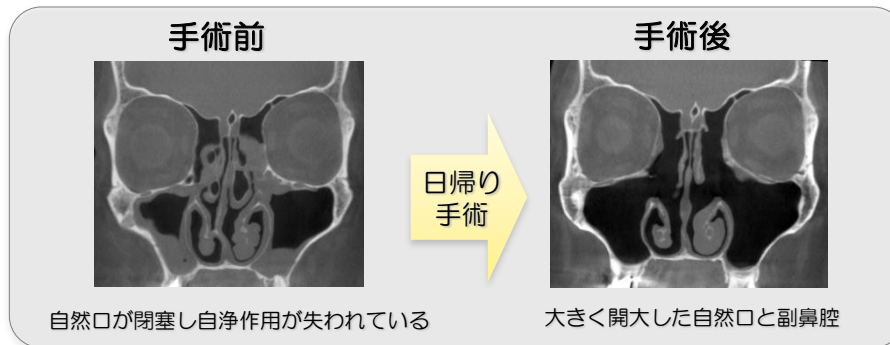
1) マクロライド系抗生物質の少量長期投与

マクロライド系抗生物質を少量で1~2ヶ月間 内服続けることで、重症例でなければ約7割の症例で治癒が期待できます。マクロライド系の抗生物質は通常の抗生物質と違い、細菌を殺すこと以外に繊毛運動を改善し粘膜の自浄機能を上げる効果があるからです。これに加えて、鼻すすりを避け、鼻かみを頻回に行い**自然口を開大する**ことも非常に重要です。当院では**生理的食塩水を使った鼻かみ法**を奨めています。但し、ポリープ(ハナタケ)が存在する、好酸球性副鼻腔炎、高度の鼻中隔湾曲症が存在する場合には、薬の有効性が乏しいため、手術的治療を選択します。

2) 手術的治療 (内視鏡下副鼻腔手術)

マクロライドの治療の有効性が乏しい場合や、高度の副鼻腔炎に行います。手術の最大の目的は、閉鎖した副鼻腔の自然口(排泄路)を清掃し、自浄作用を取り戻すことです。同時にアレルギーの処理も行いますので、くしゃみ、鼻水もかなり軽減されます。

当院では高度な副鼻腔炎でも日帰り手術が可能です。新しい手術支援装置の開発などにより、痛みなく短時間により安全で正確な手術が行えます。



自然口が閉塞し自浄作用が失われている

大きく開大した自然口と副鼻腔

好酸球性副鼻腔炎とは・・・

原因不明な点も多いのですが、従来型副鼻腔炎が細菌感染が主原因であるのに対して、好酸球性副鼻腔炎では好酸球(白血球の一種)が異常に増殖し炎症を起こします。従来型は若い頃から鼻が悪いのに対して、元来正常だった方が大人になってから突然に発症し、高度鼻閉、嗅覚障害、喘息などを起こします。細菌感染が主体ではないので抗生剤が無効な場合が多く、代わりにステロイドが有効ですが、これは長期的には使用できません。治療は、薬による治療が難しいため手術が第一選択になります。しかし、従来の副鼻腔に比べて難治性で再発しやすく、平成27年に**難病指定**されました。血液、CT、鼻内組織検査などにより基準を満たし、手術後再発があった場合などには認定され、治療費の自己負担額が軽減されます。(年収で異なります)